

近代建築の遺産を訪ねて 12月4日

## 天満の天神さんと造幣局コース

天満天神繁盛亭前に午前10時に集合し、ボランティアガイドさんの案内で班ごとに大阪天満宮、江戸時代の旧跡他、泉布観・旧桜ノ宮公会堂などを訪ねました。午後は班別活動として、造幣博物館内の展示を見学しました。

### ① 大阪天満宮

・沿革(大將軍社と天満宮):白雉元年(650年)、孝徳天皇が難波宮を造営した際、その西北に守護神として大將軍社を創建したのがそもそもの始まりである。延喜元年(901年)に菅原道真が九州大宰府へ左遷させられた際、この地にあった大將軍社に参詣し、旅の安全を祈願している。

延喜3年(903年)に菅原道真が没した後に天神信仰が広まり始めるが、天曆3年(949年)に道真ゆかりの大將軍社の前に7本の松が生え、靈光を放ったという奇譚が都に伝わった。それを聞いた村上天皇の勅命によってこの地に天満宮が建立された。以後、当社は大將軍社を摂社として新たに天満宮が中心の社となる。

・拝殿・本殿:大阪天満宮は、江戸時代の記録に残るだけで七度もの火災に遭い、現在の拝殿・本殿は、天保14年(1843年)に再建された。

・登竜門:合格祈願や就職祈願でこの登竜門を通して「本殿通り抜け参拝」をすることができるのは、一年を通して約10日間に限られる。



表大門



表大門の方位盤十二支



北鳥居



拝殿



登竜門



本殿



大將軍社



白米稻荷社



参集殿

② 大坂ガラス発祥の地碑

江戸中期の宝暦年間(1751~1764)に大阪天満宮の前でガラスの製造を始めた長崎の商人・播磨屋清兵衛が、「大阪ガラス商工業ノ始祖」とされている。

③ 川端康成生誕の地碑

明治32年(1899)6月14日、川端康成は大阪天満宮の表門からほんの少し東、現在は料亭「相生楼」が建つ場所で生まれた。

④ 天満組惣会所跡碑

江戸時代の大坂は、大川以北の天満組と、それ以南の2組(北組・南組)に区分され、それぞれの組には惣会所(事務所)が設けられ、ある程度の自治が許されていた。



御神酒笑姿(蛭子門前)



大坂ガラス発祥の地碑



川端康成生誕の地碑



天満組惣会所跡碑

### ⑤ 天満別院

1601年(慶長6年)に真宗大谷派の第12代門主である教如上人によって現在の天満別院が現在地に開基された。東本願寺の別院。



### ⑥ 川崎東照宮跡

東照大権現(徳川家康)を祀る東照宮の一社であったが、江戸幕府の崩壊と明治維新の影響により廃絶した。滝川小学校正門横に川崎東照宮跡の石碑がある。

### ⑦ 洗心洞跡の碑、与力役宅門

造幣局の敷地には、大塩平八郎が自宅で開いた私塾「洗心洞跡」の碑が建てられている。また東町奉行配下、天満与力の中嶋家の門「与力役宅門」が残っている。

### ⑧ 大塩平八郎の乱・槐跡の碑

天保8年(1837)、挙兵した大塩方がまず最初に大砲を撃ち込んだ場所。樹齢200年の槐(えんじゅ)の木に砲弾が当たり、大きく裂けたとされている。



川崎東照宮跡



洗心洞跡の碑



大塩平八郎の乱・槐跡の碑

### ⑨ 泉布観、旧桜ノ宮公会堂

泉布観は現存する大阪最古の洋風建築で、造幣寮(現在の造幣局)の応接所として明治4年に落成。泉布観の「泉布」は「貨幣」、「観」は「館」を意味し、明治天皇が訪問した際に自ら命名された。

明治4年竣工の造幣寮の正面玄関を移築した旧桜宮公会堂は、昭和10年に明治天皇記念館として建てられ、現在は結婚式場等として利用されている。



泉布観



旧桜ノ宮公会堂

### ⑩ 造幣博物館

2階は主に、造幣局のこれまでの歩み、実際の造幣局の仕事について展示されており、3階の展示スペースには、貨幣のルーツについての解説、歴史ある貨幣や記念コイン等が並んでいる。



大川沿いの紅葉と造幣局



貨幣拡大展示



貨幣鑄造設備のミニチュア展示

(担当: 4班広報)